

駒ヶ根市PRキャラクター
『こまかっぱ』



APRESIA® 導入事例 | 長野県駒ヶ根市役所様

止められない行政サービスの安定的な提供を目指して 高信頼の庁内ネットワークを構築

長野県駒ヶ根市は、自治体情報システム強靭性向上モデルの導入を契機に庁内ネットワークを刷新した。基幹スイッチにAPRESIA Systems のL3イーサネットスイッチ「Apresia13200シリーズ」、サーバースイッチにL2スイッチ「ApresiaLightシリーズ」を導入。庁内ネットワークは行政サービスに直結することから、信頼性が高く継続的な安定稼働とサポート体制が整ったAPRESIA 製品が採用されている。

課題

- 行政サービスは止められることから信頼性の高い庁内ネットワークの導入・運用が求められていた
- Web会議やクラウドの利用などで増加するトラフィックに対応できる性能を備えたスイッチが必要だった
- ネットワーク設計に必要なスイッチの性能などに関する質問に的確に応えてくれるメーカーが望ましかった

解決策

- 高い信頼性で実績のあるイーサネットスイッチ APRESIAを採用し、安定的な行政サービスの提供を実現
- 高性能で帯域に余裕のあるApresia13200シリーズを導入し、将来的なトラフィック増大にも対応
- 営業部門を含め、国産メーカーならではのきめ細かなサポート体制で自治体やIT事業者の業務を支援

CLIENT DATA

駒ヶ根市



市役所本庁所在地

長野県駒ヶ根市赤須町20-1

世帯数／人口総数

12,916世帯／32,248人
(2018年12月1日現在)

プロフィール

リニア中央新幹線、三遠南信自動車道など高速交通網の整備を活かした地域振興や、雄大なアルプスの景観、豊かな自然と調和したまちづくりを目指している。



駒ヶ根市役所
総務部 危機管理課
情報係 係長

伊藤 徹治 氏

PARTNER DATA

株式会社アイテク／ITEK Corporation

本社所在地

長野県下伊那郡喬木村400番地113

プロフィール

アプリケーション開発やシステム基盤構築などの情報システム関連事業のほか、パソコンコンピュータなどの電子機器受託製造事業を展開している。

<http://www.itek.co.jp/>

上伊那広域連合で 基幹系システムを運用

長野県南部、伊那谷のほぼ中央に位置する駒ヶ根市は、東に南アルプス(赤石山脈)、西に中央アルプス(木曽山脈)の「アルプスがふたつ映えるまち」として知られる。地方自治体は少子高齢化や人口減少などさまざまな社会的課題を抱える中、駒ヶ根市では豊かな市民生活の実現と活力ある地域づくりに向け、「駒ヶ根市第4次総合計画」(2014年～2023年)を策定。

「ともに創ろう！笑顔あふれるまち 駒ヶ根」を合言葉に、産業振興と雇用の確保をはじめ、子育て・教育環境の充実、防災・防犯対策の推進、都市整備基盤・景観・環境保全、福祉・保健・医療の充実、生涯学習・文化・スポーツ振興といった基本目標を掲げ、活力あるまちづくりを進めている。

こうした駒ヶ根市の施策や行政サービスの基盤となるのが庁内ネットワークと基幹系・情報系システムだ。駒ヶ根市では以前から伊那市など周辺の市町村とともに電算処理の共同化を進めてきた。

駒ヶ根市役所 総務部危機管理課 情報係係長の伊藤徹治氏は「2010年から駒ヶ根市など8市町村で構成される上伊那広域連合による情報センター(自治体クラウド)の運用を開始。住民登録や税、財務会計など基幹系システムの構築・運用を上伊那地域全体で行っています」と説明する。周辺自治体との業務標準化によるシステム改修費やハードウェア費などの維持費削減、データセンターの活用による災害時の業務継続やデータ保全などの狙いがある。

強靱化向上モデルに合わせ 庁内ネットワークを刷新

こうした自治体クラウドの取り組みの一方、自治体のネットワーク及び行政システムに大きな変化をもたらしたのが2016年1月から始まったマイナンバー制度だ。総務省ではマイナンバー制度の導入に合わせ、各自治体に対して自治体情報システム強靱性向上モデルに基づく庁内ネットワークの3分割(マイナンバー系、LGWAN系、インターネット系)を求めた。

駒ヶ根市では、それまで基幹系と情報系の2系統で庁内ネットワークを構築、運用してきた。情報系の中でLGWANとインター



駒ヶ根市役所
総務部 危機管理課
地域防災係

松原 和樹 氏

ネットを運用してきたが、強靭性向上モデルでは3系統に分割しなければならず、最適な分割方法を検討していた。

そして、府内ネットワークの分割に合わせ、ネットワークを刷新することになった。「基幹系システムは地域の情報センターで運用していますが、情報系システムは府内で運用しており、サーバーやスイッチの老朽化などでネットワークが停止することもありました」と府内のITを担当する駒ヶ根市役所 総務部危機管理課 地域防災係の松原和樹氏は打ち明ける。

府内のほとんどの業務はITを活用しており、ネットワークの停止は住民への行政サービスの低下につながりかねない。

そのため、「府内ネットワークの刷新にあたり、業務を止めることなく安定的に稼働できるIT環境の実現が最重要課題でした」と伊藤氏は話す。

そして、ネットワークの安定稼働を担保する高い信頼性と可用性、将来のトラフィック増大にも柔軟に対応する余裕ある帯域と容量、きめ細かなサポート体制などを要件に、強靭性向上モデルに適用する府内ネットワークの設計の検討を開始した。

高い信頼性と安定性を評価しAPRESIAを導入



株式会社アイテク
システム推進部
南信システムグループ
課長

市瀬 博 氏

強靭化向上モデルの実現のため、地元IT企業のアイテクでは、インターネット系の新設に伴う府内ネットワークの3分割の方法として、スイッチングハブのフィルタリングを用いて、論理分割することを提案。そのため、安定的な稼働ができる府内ネットワークの基盤となる基幹スイッチにAPRESIA SystemsのL3イーサネットスイッチ「Apresia13200シリーズ」、サーバースイッチにL2スイッチ「ApresiaLightシリーズ」を選択し、入札に臨んだ。

APRESIAを選択した理由について、株式会社アイテクシステム推進部 南信システムグループ課長の市瀬博氏は「自治体で利用するスイッチは、手堅く業務が行え、安定稼働することが大前提となります。その点、APRESIAはミッションクリティカルな業務を行う多くの企業が導入しており、以前から高い信頼性と安定性を評価していました。また、府内ネットワークのトラフィック量が年々増えており、性能面で余裕のあるスイッチが必要でした。APRESIAは他社製品と比べても、コストパフォーマンスに優れており、できるだけコストを抑えたい駒ヶ根市様の要望にも適していました」と説明する。

ネットワーク設計の際、カタログスペックではなく、スイッチの実際の性能が分からないと、性能保証もできない。市瀬氏は「APRESIA Systemsは事前の問い合わせにも、きちんと答えてくれます。メーカーと話ができないと、自信を持って推薦することができません。営業担当者の顔が見えるメーカーであることも、重視しました」と市瀬氏はサポート体制を含め、APRESIAの対応を評価する。

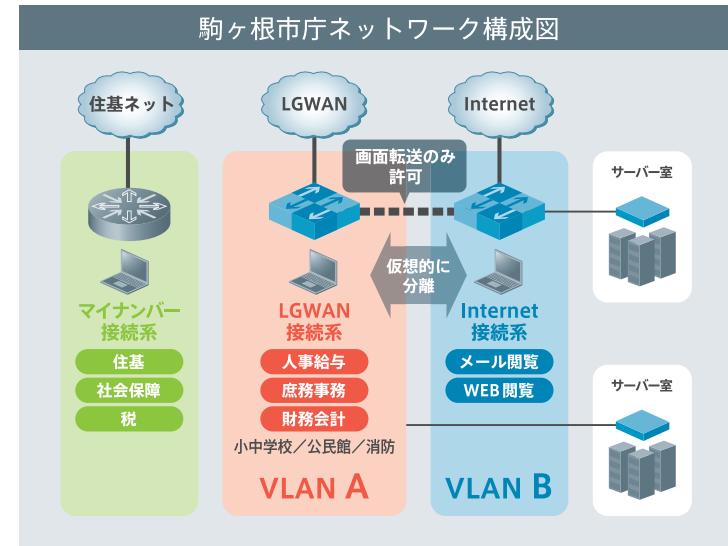
安定稼働でネットワークを意識せずに業務を遂行

新しい府内ネットワークはマイナンバー系を物理的に分割し、LGWAN系とインターネット系はApresia13200シリーズのVLANで分割している。LGWAN系につながる端末台数は約350台。仮想デスクトップを導入し、インターネット系の情報は画面転送する仕組みにした。「インターネット系を完全分離することが原則ですが、職員の皆さんの業務を考えると分離して複数端末を操作するのでは不便です。そこで、画面転送を例外通信としてAPRESIAでフィルタリングをかけ、画面転送以外の通信を遮断することで、セキュリティを確保しています」と市瀬氏は説明する。

そして、伊藤氏は「近年、インターネット系の通信量が急増しています。県庁とWeb会議を行う機会が増えていますが、府内ネットワークが刷新され、快適に利用できます。ネットワーク帯域に余裕があるスイッチを導入してくれたおかげです」とAPRESIAの導入効果を話す。

新庁内ネットワークが稼動を開始してまもなく2年になるが、松原氏は「APRESIAはトラブルもなく、安定稼働しています。職員もネットワークを意識することなく仕事ができます」と述べる。

また、府内のサーバーやストレージを収容するApresiaLightシリーズは低コストの上に5年間の無償保証が付いている。「おおよそ5年ごとの更新を目指していますが、この間、無償保証なのは予算が限られる自治体にとってありがたいですね。予算の関係で5年以上使うこともあります、長期間、安定して使える安心感があります」(伊藤氏)。



ITを活用する駒ヶ根テレワークオフィスにもAPRESIAを導入

駒ヶ根市では府内ネットワークのほかに、駒ヶ根駅前に開設された駒ヶ根テレワークオフィス「Koto」にもApresia13200シリーズとApresiaLightシリーズが導入されている。Kotoは、総務省のふるさとテレワーク推進事業によって設けられ、ITを活用して柔軟な働き方を支援する施設だ。「今後、Kotoの利用者も増えることが見込まれ、市役所と同様に高性能で帯域に余裕のあるAPRESIAを基盤にネットワークを設計しています」と市瀬氏は話す。

駒ヶ根市では従来より、市役所と支所、公民館、図書館、学校などの出先機関を結ぶ地域インターネットを運用してきた。市はこのネットワークの活用を今後もさらに進めていく考えだ。「政府は、クラウドファーストでシステム構築を進めようとしています。その流れは近々、自治体にも大きな波として及んできます。クラウド時代に見合う高い品質のネットワークを整備し、これからも業務環境の改善を進めてまいります」と伊藤氏は話す。

駒ヶ根市役所で利用される業務システムの拡大とともに通信トラフィックも増えていく。行政サービスの安定的な提供に向け、信頼性が高く、余裕のあるネットワーク帯域とパフォーマンスを備えたAPRESIAの真価が発揮されるのはまさにこれからだ。



アイテク
市瀬 博 氏

駒ヶ根市役所
松原 和樹 氏

駒ヶ根市役所
伊藤 徹治 氏

アプレシアシステムズ
田中 伸典

APRESIA Systems 株式会社

〒104-0045 東京都中央区築地二丁目3番4号 築地第一長岡ビル8階
☎(03) 6369-0400 [https://www.apresia.jp/](http://www.apresia.jp/)